

てらおか メディカル・クオータリー



TERAOKA MEDICAL QUARTERLY

Vol. 59
2019.02

社会医療法人社団陽正会
寺岡記念病院



セツブンソウ（庄原市総領町）

特集 新年のご挨拶

寺岡記念病院は、医療・福祉・介護のトータル&シームレスケアに取り組んで参ります。また、地域共生医療に向かって、ネットワークを広げ、かつ深化させていきます。本年もどうぞよろしくお願い申しあげます。

理事長新年挨拶	P1
病院長新年挨拶	P3
事業本部長新年挨拶	P4
地域医療福祉支援センター長新年挨拶	P5
看護部長新年挨拶	P7
事務局長新年挨拶	P8
肩関節周囲炎について	P9
マスクをするのは誰のため？何のため？	P11
理念・病院カレンダー	P14
外来診療表	裏表紙

地域共生医療への取り組み

社会医療法人 社団 陽正会:寺岡記念病院・北川クリニック・老健みのり・神石高原町立病院(指定管理)、社会福祉法人新市福祉会:高齢者複合施設ジョイティニアおおさ・しんいち、多世代交流施設ローカルコモンズしんいちは、福山・府中二次保健医療圏において文字通り切れ目のない全人的地域包括ケアに取り組んでいます。その新たな統一事業理念は「地域共生社会」の創設であります。

「地域共生社会」とは、さまざまな制度・分野や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域の人びとや実施主体が等しく自分のこととして参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域を共に創っていく社会を指しており、2017年2月にこれから地域社会のあり方として国(厚生労働省)が掲げた政策課題です。

もともとこの政策課題は2008年以降行われた社会保障国民会議において示された「医療の機能分化を進めるとともに急性期医療を中心とした人的・物的資源を集中投入し、後を引き継ぐ回復期等の医療や介護サービスの充実によって総体としての入院期間をできるだけ短くして早期の家庭復帰・社会復帰を実現し、同時に在宅医療・在宅介護を大幅に充実させ、地域での包括的なケアシステムを構築して、医療から介護までの提供体制間のネットワークを構築することにより、利用者・患者のQOL(Quality Of Lifeの略:生活の質)の向上を目指す」、さらには「地域ごとの医療・介護・予防・生活支援・住まいの継続的で包括的なネットワーク、すなわち地域包括ケアシステムづくりを推進する」という「るべき医療・介護サービス」提供体制の背景にある基本的考え方から出発しています。

高齢化が進み、団塊の世代がすべて75歳になる2025年が目の前に迫って、「2025年問題」と喧伝されるようになって10年経ちました。さらに現在では人口減少が始まり、100年後には明治維新当時の人口に逆戻りするという推計値が示されています。そのような時代の趨勢において大事なことは「地域共生社会」の創設です。その「地域共生社会」とは、住民の主体的な支え合いを育み、暮らしに安心感と生きがいを生み出し、地域の資源を活かし、暮らしと地域社会に豊かさを生み出す社会の創設です。具体的な政策課題を挙げると、

1. 住民相互の支え合い機能を強化、公的支援と協働して、地域課題の解決を試みる体制を整備する。
2. 地域包括ケアの理念の普遍化すなわち高齢者だけでなく、生活上の困難を抱える住民への包括的支援体制の構築をする。
3. 複合課題に対応する包括的相談支援体制の構築、など共生型サービスの創設をする。などです。



社会医療法人 社団陽正会 理事長
寺岡 嘸

病院長 新年挨拶

「新しい年」がスタートします



病院長
武田 昌

皆さん、明けましておめでとうございます。2019年の年頭にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

今年のお正月は、この地域としては比較的穏やかな気候で、インフルエンザも昨年のような爆発的流行には至っていないようです。

昨年はまさに「災いの年」として、記録に残るほど災害の多い一年でした。天災のほとんどない瀬戸内地域でも、豪雨による大きな災害が起り、いまなお復旧の進んでいないところが多く見られています。天災は避けられないのですが、今回の災害を貴重な教訓として、更なる対策が進むことを願っています。

さて、年が変わって、今年2019年は、5月から元号が改められ、まさに「新しい年」がスタートします。どのような元号になつても急に私たちの生活が変わるわけではありませんが、この新しい年をきっかけに、何か一つでも新しいことを始めてみませんか？

医師としてお勧めするとすれば、何か一つ運動を始めてみることが良いと思います。スポーツクラブなどはお金がかかりますから、平凡であっても、自分の脚を使って毎日(無理なら週2,3回とか)歩くのが、一番健康に良い方法でしょう。やってみると如何に自分の体が今まで怠けていたかがよく分かると思います。軽い筋肉痛の心地よさとお友達になりましょう。

「高齢者医療」などと言う言葉も、もはや古びて感じられるほど高齢化は急速に進んでいます。自分は年寄りだ…と思った瞬間にその人は「老人」になるのだと思います。脚だけでなく、頭も目も耳も、使えるものは全てフルに使う毎日を送りましょう！

それでは皆さんにとって新しい2019年が素晴らしい年になりますようお祈りしております。

事業本部長 新年挨拶

どのように住民の方々に寄り添つていけるか考え、実践していきます



事業本部長
寺岡 謙

旧年中は、患者さんとそのご家族を含む地域住民の皆様方に大変お世話になり、誠にありがとうございました。2019年も、寺岡記念病院を始めとする陽正会グループの職員一同が団結して、地域医療と介護・福祉の維持・発展に向けて、一層奮励努力したいと考えております。引き続きの皆様のご指導とご協力を、よろしくお願い申しあげます。

いよいよ、平成の最後の年になりました。皆様にとって、2018年はどのような年だったでしょうか？公益財団法人 日本漢字能力検定協会が発表した2018年の漢字が「災」であったように、残念ながら昨年は災害が多い年でした。1月には群馬県の本白根山が噴火、6月には大阪北部を震源とする地震があり、7月には西日本豪雨が発生、広島県でも大きな被害が出ました。9月には台風21号による暴風や高潮によって大きな被害が出た直後に、北海道の胆振地方を震源とする地震が発生しました。このように、災害による被害は、日本全国に及んでいます。

しかし、このような被害に苦しんでおられる方々が多い時代だからこそ、我々、医療・介護・福祉に携わる人間たちが、その本務をしっかりと実行していく事が求められています。寺岡記念病院及びローカルコモンズ shinichi を含む陽正会グループの職員皆、地域医療・介護・福祉に貢献したいという使命感を持っています。災害が多い時代において、人口が減っていく地域社会でどのように住民の方々に寄り添つていけるかを考え、実践していきたいと考えています。

2019年は、十干では己(つちのと)で、十二支で亥(いのしし)の年です。己亥は、「現状を維持し、守りに徹する」年だそうです。また、亥には、「次のステージに向けた準備期間」「無病息災の年」という意味があるようです。2019年の寺岡記念病院は、次のステージに向け、自分たちの役割をしっかりと再認識しながら、一歩一歩着実に、健康で元気に業務を進めてまいります。

新しい年、そして来るべき新しい時代を、皆様が穏やかで健康に過ごせますようにお祈りいたします。

地域医療福祉支援センター長 新年挨拶

地域連携の分野では、 3つの課題を重点的に 取り組んでいきます

平成31年、平成最後の年は、1月3日、熊本県和水町を中心とする震度6弱の地震で始まりました。平成28年4月の震度7の熊本地震と比較すると、規模は小さいものでしたが、それでも九州新幹線を利用する帰省客のラッシュと重なり、終日運休等の大きな影響がでました。

昨年、平成30年は、1月草津白根山噴火、豪雪で始まり、4月島根県西部地震、6月大阪府北部地震、7月西日本集中豪雨、猛暑（高温災害）、9月台風21号、北海道胆振東部地震と、気の休まる間もなく、災害が連続的に発生した一年でした。夏の猛暑には、「高温災害」という言葉まで創られました。

昨年の天皇誕生日、天皇陛下は、平成を振り返り、「平成3年の雲仙・普賢岳の噴火、平成5年の北海道南西沖地震と奥尻島の津波被害に始まり、平成7年の阪神・淡路大震災、平成23年の東日本大震災など数多くの災害が起り」と、平成に多発した災害に言及されています。「地震・火山爆発、豪雪、台風・高潮、豪雨・洪水、猛暑」、どれをとっても、怖いものばかりですが、それは、一人ひと

地域医療福祉支援センター長
地域医療科部長
藤原 恵



りの生命・財産に大きな脅威と損害を与えるだけでなく、生産手段（工場、農地等）や地域のインフラ（道路・鉄道、港湾・空港、上下水道、発電所・送電線、中継基地・通信線、医療機関、介護福祉施設等）等の社会資本に甚大な被害をもたらし、地域社会の維持・継続に大きな困難をもたらすからです。しかも復旧には膨大なお金と時間がかかります。

「災害時にどう事業を継続していくのかを事前に計画しておくこと」=事業継続計画書（BCP）の作成を寺岡記念病院も行っている最中です。「災害多発の時代にあっても、トータル＆シームレスな医療・ケアをどうしたら継続していけるのか」という視点で、「地域包括ケアシステム構築」を推し進めています。

地域連携の分野では、次の3つ課題を重点的に取り組んでいきます。

1) 地域包括ケアしんいち調整チームの充実

2014年6月に、地域包括支援センター新市と寺岡記念病院・地域医療福祉支援センター、てらおか訪問看護ステーションが中心となり、「対応困難症例」を検討する「地域

包括ケアしんいち調整チーム」を発足させ、週1回金曜日に継続的に開催しています。制度の隙間にある人やどこにどう相談したらいいのか分からない人（医療・介護難民等）に対して、より積極的に対応するものとして、2017年10月からは在宅支援外来を開設してきました。このように対応してきた症例は、「災害弱者」でもありました。対応症例は「氷山の一角」であり、その背後にある多数の「対応困難症例」にどうシステム的に対応できるかが課題だと考えています。福山市・府中市等の行政機関や各看護・介護事業所の看護師、ケアマネージャー、社会福祉士等との連携をさらに強化していきたいと考えています。

2) 救急医療と在宅医療の充実

寺岡記念病院は、福山市北部・府中市の第2次救急医療を支えるケアミックス型病院です。現在、救急患者さんの搬送依頼の応需率は80%台で推移していますが、すこしでも多くの依頼に対応できるように引き続き努力していきます。

近年は救急搬送される患者さんの多くが要支援・要介護の高齢者であるという中で、「入院された患者さんが、元々過ごしていた生活環境にできる限り速やかに復帰する」という目標を達成するために、ケアミックス型病院の強みを生かして、効率的効果的な病棟運用を進めていきたいと思っています。患者さんには、「急性期病棟から回復期病棟、慢性期病棟、療養病棟への転

棟」という不便をおかけする場合もありますが、「退院後の療養生活をイメージしながら、患者さんの状態に応じた病棟で、多職種で、医療・看護・介護・リハビリを提供していく」という目的での転棟ですので、ご理解いただければ幸いです。

3) 「高齢者総合評価」と「ACP（アドバンス・ケア・プランニング）」をツールとした地域における多職種連携の充実

「地域の中で、その人らしく、最後まで過ごす」ことができるというのが「地域包括ケアシステムづくり」の理念です。このことを実現していくためには、普段から「本人の生活動作、社会的活動、摂食嚥下・機能、意欲度・うつ度」など本人を包括的に評価し、「今後、何を大切にして過ごしたいのか」という本人の希望を確認し、本人・家族を含めて、多職種でその情報を共有していくことが必須です。そのためのツールとして、「高齢者総合評価」と「ACP・私のこころづもり」があります。こうした「高齢者総合評価」や「ACP」は、病院内だけではなく、地域の多職種連携にとっても大切なものです。このツールを地域においても、積極的に普及していきたいと思っています。

今年も、これまで以上に、ご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願いします。

*地域医療福祉支援センターは、地域医療連携室、入退院センター、医療福祉相談室、在宅支援室から構成されています。

看護部長 新年挨拶

3つの「C」をコンセプトに取り組んでいきます



看護部長
西中 鮎子

まずは、年末年始、お仕事をしてくださった皆さんに心から感謝申しあげます。

昨年は西日本豪雨による土砂災害や大阪や北海道の地震など災害の多い年となりました。寺岡記念病院においては大きな被害に見舞われることはありませんでしたが、直ちに災害対策本部を立ちあげ、患者さんや地域の皆さん、職員の安全を守る取り組みを実施しました。建物の老朽化等に伴い何かとご負担をおかけしましたが、皆さまのおかげで無事に新年を迎えることができました。改めて心からお礼申しあげます。

さて私、昨年3月1日に黒田悦子前看護部長の後任として看護部長を拝命いたしました。住まいも広島から福山へと引っ越してしまいました。慣れないままに、医療法第25条の立入検査を皮切りに、病院機能評価3rdG:Ver.2.0の受審、中四国厚生局の適時調査と大きな行事がございましたが、皆さまのご尽力のおかげにより、無事にこの難関を突破することができました。一重に皆さまに支えられた一年であったと痛感しております。

私たち看護師は“人を尊重し、心のこもった看護を提供する”ことを使命としています。看護を通してスタッフが、やりがいと働く喜びを感じることができる組織を創ることが私の責務であると考えています。

「Change:変化」急激な社会環境の変化、その変化に自分も適応しながら成長していく。「Chance:機会」診療報酬の改定など社会の変化をチャンスと捉え、「Challenge:挑戦」そして挑戦していく。この3つの「C」をコンセプトに、引き続き本年も取り組んでいきたいと考えております。

2019年の干支は「己亥(つちのとい)」です。亥年は「次のステージに向けた準備期間」ともいわれ、完成した自己や成熟した組織が足元を固めて、次の段階を目指して準備をする年になると申します。看護部では、人材育成を重点に内部組織の充実を図り、患者さんや地域の皆さんに必要とされ、看護でも選ばれる病院を目指し、地域や病院の発展に貢献していきたいと考えております。

今年が皆さんにとって良い年でありますように、心からお祈り申しあげ、新年のご挨拶とさせていただきます。

事務局長 新年挨拶

信頼という心の絆を一層深め、培っていきます。



事務局長 西嶋 朝枝

皆様、新年おめでとうございます。本年もまた一步、前進しましょう。

今年は東日本大震災発生から8年目の年にあたります。また昨年7月には西日本豪雨被害により尊い人命を失うこととなりました。自然災害の多い昨今、被害を最小限に止めるためには地域単位・各病院施設等において災害への安全対策の取り組みがより一層必要であると考えます。また当院においても、災害が発生した場合、早期に事業を再開するための事業継続計画(BCP)を策定することが喫緊の課題となります。

さて、高齢者の増加とともに、お年寄りができるだけ長く住み慣れた地域で暮らせるよう、「地域包括ケアシステム」という仕組み作りが求められています。

私事になりますが、昨年9月実父が102歳にしてこの世を旅立ちました。父が97歳の時、亡き母の実家がある東京へ家族を案内してくれました。1本杖を突いておりましたが、比較的元気に流暢な言葉で浅草雷門から合羽橋から上野アメ横等々へ、何だか軽やかそうに歩幅を進めていたように思われました。

しかし、昨年7月末心不全の悪化により入院生活を送ることとなり主治医の先生、病棟看護師長さんはじめ看護職員の皆様・ケアマネージャーさん等には言葉では言い尽くせない程お世話になり、家族共々本当に感謝しております。亡父の苦痛を最小限にした処置・吸引・体位交換等のケア、また何よりも沢山のやさしい言葉を掛けていただきましたことに父・家族もどれだけ励まされ勇気づけられたことでしょう。

現在、「人生の最終段階における医療・ケアの在り方」について、論議されているところであります。本人が家族や医療・ケアチームと繰り返し話し合う取り組み「ACP(アドバンス・ケア・プランニング)」は、患者本人による意思決定を基本として進められることが重要であると考えます。

人生の最期において、どこまでの医療・ケアを求める?患者さん・ご家族の思い・願いは?医師・医療従事者等の考え方・支援方法は?その人らしい最期のありようとは?患者さんの気持ちの変化は様々(人は最期頃を感じる時があります。しかし、人は命ある限り最期まで生きたいと願う気持ちもあります。)であると思思います。また、ご家族の気持ちの変化も様々(苦痛の緩和を願う気持ちもあります。しかし、少しでも長く話していいから強い鎮静剤は避けてほしいと願う気持ちもあります。年齢にかかわらず少しでも長く生きてほしいと願う気持ちもあります。)であり、気持ちの変化は状況・状態等により変わるものだと思います。

こうした人生最期にあってこそ、医師はじめ医療従事者(多職種)、患者さんご家族、周囲の人々との信頼関係の大切さを痛切に感じるとともに、医療現場において「信頼という心の絆」を一層深め培って行きたいと考えます。

末筆になりましたが、地域の皆様そして、職員皆様のご健康を祈念いたしまして、新年のご挨拶にかえさせていただきます。本年も、どうぞよろしくお願ひいたします。

肩関節周囲炎について

～リハビリ室～

肩関節周囲炎(いわゆる「四十肩」、「五十肩」)は中年以降に発生することが多く、老化による組織(筋肉、靭帯、関節包など)の変性を基盤として、肩の痛みと運動制限を現す疾患です。

症状

主症状は、肩周囲の痛みと動きの低下です。特に結髪・結帯・更衣などの日常生活動作が障害されます。夜間痛(就寝時の痛み)も特徴です。

肩関節周囲炎の病期は、炎症期・拘縮期・回復期に分類され、症状もそれぞれの時期で異なります。

炎症期 痛みがとても強い時期

明らかなきっかけがなく、急速に強い痛みが生じます。多くの場合、安静時痛・夜間時痛を伴います。

拘縮期 肩まわりの動きが硬くなる時期

強い痛みが和らぎだのち、肩の動きが悪くなる「拘縮」へと移行する時期です。肩を動かした時に痛みを感じたり、動きの悪さから日常生活動作に不自由を感じることが多く見られます。

日常生活の注意点

- 肩を冷やさないよう、保温を心掛ける(ただし、急性期は冷やします)
 - ・就寝時には布団から肩を出さないように注意する
- 夜間の痛みがある場合は、寝る姿勢に気をつける
 - ・痛い肩を上にして横向きに寝る場合は、クッションを抱きかかえる
 - ・仰向けに寝る場合は、痛い肩の下に丸めたタオルを入れて肩を浮かせる

運動療法

急性期に無理な運動をすると炎症を悪化させることがあるため、この時期には安静を保つことが大切です。このため、電気治療や注射によりできるだけ早めに急性期の炎症を抑え、早期に運動療法を始められるようにしましょう。また、炎症期でなくても不適切な運動により悪化する可能性もあるため、動かした方がよい時期か医師や療法士の意見を聞くことが重要となります。症状には個人差があるため、いずれの時期も、必ず療法士による指導のもとにリハビリを行うことが大切です。



自宅で行える運動

振り子体操

①痛くない方の手を台にのせて上半身を前に倒し、痛い方の手でアイロン程度の重さ(約1kg)の重りを持ちます。

②肩の力を向き、体全体を揺らすことにより、おもりの重さを利用してゆっくり振ります。



●最初は小さく、次第に大きく動かしていきます(無理のない範囲で行いましょう)

●前後・左右・回転(内回し・外回し)をそれぞれ30秒~1分行います

棒体操

肩幅より長めの棒を使います(自宅にあるゴルフクラブ、杖、傘など)。背筋を伸ばして椅子に座って行います。それぞれの運動を各10回ずつ行います。



肩甲骨の体操

肩の力を抜いて、左右の肩をそれぞれの手で触り、肘をくるくる回します。
肘の高さと肩の高さが同じくらいになるように気をつけましょう。
前回しと後ろ回しを交互に10回ずつ、3~5セット行ないます。



マスクをするのは 誰のため？何のため？ ～風邪やインフルエンザを予防しよう～



看護師
田邊 直人

皆さんは日常的にマスクを利用していますか？

私が小さい頃はマスクを着用していると、「どしたん？風邪引いたん？」と必ず言われていました。もちろん風邪を引いた時や、給食当番の時くらいしかマスクを使ったことはありませんでした。

一昔前は“病気の人”をイメージしたイラストに「マスクをした人」が描かれていたのですが、最近では「様々な理由」でマスクを着用する世の中になったようです。今回は、“マスク”についてお話をします。



マスクは本当に 病気を予防できるの？

インフルエンザが流行すると、マスク着用者が急増します。「感染したくない」と思うのは誰しも同じです。

しかし、マスクの着用だけで本当に感染は防げるでしょうか。そもそもマスクを着けることで一体どんな効果があるのでしょうか？

まずは病気を引き起こしている原因が何なのかを知ることから始めましょう。

病原体って何だ？

風邪や胃腸炎、肺炎やインフルエンザなど病気によってその原因となる微生物（病原体）の種類は違います。例えば同じ“肺炎”でも、「肺炎球菌」によるものと、「インフルエンザウイルス」によるものでは治療も予防も異なるのです。

細菌感染	肺炎（肺炎球菌や緑膿菌）、O157、コレラなど
ウイルス感染	風邪（RSウイルス、ライノウイルスなど）、インフルエンザなど

一般的に皆さんが「風邪」と呼んでいるのは“ウイルス感染症”であることがほとんどなのです。

ウイルスってどんなもの？

微生物（病原体）の中でも風邪やインフルエンザを引き起こす「ウイルス」の類の大きさは細菌の1/10～1/100と非常に小さく、実はマスク（一般的な市販のもの）のフィルターを易々と通り抜けています。

マスクをしているから、ウイルスが身体にまったく入ってこないと考えるのは間違います。そしてマスクの外側は、細菌とウイルスがたくさん付着していることも忘れてはいけません。

どうやって人から人へ？

「感染経路」という言葉があります。これは感染が起こる時の病原体の通り道を言います。

インフルエンザや風邪などのウイルスは“飛沫感染”といって、咳やくしゃみによって約1メートル周囲に飛散するウイルスを吸い込むことで口や鼻の粘膜に感染することで発症します。

ウイルスはマスクを透過する大きさですが、すでに感染している人がマスクの着用により咳やくしゃみの空気の流れを遮断することで遠くまでウイルスが飛んで行くことを防ぐ事が出来ます。これはとっても有効な予防手段なのです。また手にウイルスが付着したまま目や鼻を触ったり、手づかみで食べたりすることでウイルスは体内に入ります。こうやって直接体内に取り込む場合を“接触感染”と呼びます。実は風邪やインフルエンザの多くは“接触感染”で発症することが多いのです。

目から感染するって本当？

インフルエンザや風邪は、実は目の粘膜からも感染するのです。

もしも、インフルエンザに罹っている人のくしゃみや咳から出る飛沫を目に浴びると目の粘膜を通して感染します。

「人にうつせば早く治る」 は大間違い！

昔の人の言うことは道理に叶うことが多いのですが、こればかりは絶対に鵜呑みにしてはいけません。ウイルス感染症は人にうつしたからといって治りません！

通常、ウイルスに感染すると3～7日の潜伏期間を経て発症します。それと同時に体は必死に治そうと活動し始めます。その間に誰かに感染させてしまった場合にその人が発症する3～7日のうちに元の感染者が治つてくると、あたかもそれらしく見えてしまうのです。

マスクをするのは誰のため？何のため？

～風邪やインフルエンザを予防しよう～

ウイルスってどんなもの？

感染症は一人きりでは成立しません。うつす人、うつされる人の双方がいてこそ成立します。この病気のリレーを断ち切るためのポイントを知りましょう。

感染源
(病気にかかっている人)
に近づかない

自分が感染源(風邪やインフルエンザ)になった時は、速やかに自宅で療養することです。誰かにうつしたとて、早く治ることはできません。

感染経路を遮断する！

風邪やインフルエンザにかかっている人の咳、くしゃみなどは言わば無差別テロです。あなたがもしも風邪を引いたなら良心に問いかけて、すぐにマスクをすることです。まだうつっていない人の最大の防御策は“手洗い・うがい”です。マスクを外した手、感染した人に触れた人に触れる時、ウイルスはあらゆる手段で人から人へ渡っていくのです。

感染に負けないからだ
(免疫の獲得)

感染症に負けない体をつくることも大切です。しっかり食べる、しっかり眠る、しっかり動く(運動する)ことが大切です。丈夫な身体にはウイルスや細菌と勇敢に戦う免疫が備わります。



エチケットで 感染症は減る

風邪やインフルエンザに罹った時こそ、“人にうつさない”ことを意識して下さい。「うつりたくない」ではなく、「うつしたくない」と思いあえると感染症の連鎖はぐっと減るはずです。“うつらない”のは難しいことですが、“うつさない”ことは誰にでも出来る心配りなのです。

皆様の健康の一助となれば幸いです。



「伊達マスク」という言葉をご存知ですか？

度の入っていないメガネを伊達メガネと呼ぶのになぞらえて、病気の感染予防以外の目的でマスクを着けることを言うそうです。ある人は身分を隠すため、ある人はスッピンを隠すため。街の中で多くの人がマスクを日常的に着用するようになり、マスク=病人といったイメージも無くなりました。ですが、元気な人が病に怯えてこぞってマスクをする世の中が当たり前にならないように。切にそう願います。



寺岡記念病院
理念

スローガン

保健・医療・福祉の統合とネットワーク形成による新地域医療を実践しよう

方針

- ①地域住民の健康と安心を守る医療機関であり続け、健康地域づくりに貢献します
- ②医療を受ける人の個々のニーズに応える医療を提供します
- ③安全で良質な医療提供のためスタッフの職務能力と人格能力を高めます
- ④社会の要請に対応した医療を提供します
- ⑤長期的に安定した医療を提供するため健全な経営を行い病院の総合力を高めます

トータル&シームレスケア
全人的で切れ目のない医療提供の推進

2019年 寺岡記念病院カレンダー

1月							2月							3月							4月												
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土						
			1	2	3	4	5						1	2						1	2				1	2	3	4	5	6			
6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26			
13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31					
20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31			24	25	26	27	28															
27	28	29	30	31																													
5月							6月							7月							8月												
			1	2	3	4							1																				
5	6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26		
12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31														
19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29	30	31											
26	27	28	29	30	31																												
9月							10月							11月							12月												
1	2	3	4	5	6	7							1																				
8	9	10	11	12	13	14	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26		
15	16	17	18	19	20	21	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31								
22	23	24	25	26	27	28	29	30						27	28	29	30	31															
29	30													27	28	29	30	31															

休診日のご案内

- ①日曜日・祝日 ②年末年始 (12/31・1/1・2・3) ③お盆 (8/15・16)

日曜・祝日
以外の
休診日

外来受付時間

- 平日／午前8:30～11:30 ●土曜日／午前8:30～11:00

外来診察時間

- 平日 (月～土)／午前9:00～12:00 午後1:30～5:30

外来診療表

外来受付
時間平日:午前8:30~11:30
土曜日:午前8:30~11:00外来診療
時間月~土曜日:午前 9:00~12:00
午後 1:30~ 5:30

診察室	月	火	水	木	金	土
内科	1診	松本 寛	武田 昌	城戸 雄一	武田 昌	足立 卓哉 (肝臓)
	2診	熊谷 功	熊谷 功	松本 寛	福田 真治	熊谷 功
	3診	中村 真	藤原 悠紀		杉浦 弘幸	杉浦 弘幸
	4診	福田 真治	城戸 雄一	藤原 恵		宮崎 裕子 (脳神経内科)
	専門外来		西森 久和 (月2回・血液内科)	広島大学 (脳神経内科)	鈴木 英之 (消化器内科)	中村 重信 (月2回・パーキンソン)
	専門外来	内田 治仁 (月2回・糖尿病)		中川 晃志 (循環器内科)	病院長午後外来	吉柄 正生 (月1回 循環器内科)
脳神経外科	1診	寺岡 晖			寺岡 晖	
	2診	渡辺 高志	渡辺 高志	渡辺 高志	渡辺 高志	東京大学
	3診	竹信 敦充	竹信 敦充	東京大学	竹信 敦充	竹信 敦充
	4診			田中 遼		矢島 寛久 てんかん外来 (月1回)
	専門外来		脳健診	総合診療	脳健診	
外科	1診	花畑 哲郎	蓮岡 英明	花畑 哲郎	蓮岡 英明	花畑 哲郎
	2診	蓮岡 英明	花畑 哲郎	蓮岡 英明	松三 雄騎	西山 岳芳
	専門外来				大澤 晋 (心臓血管外科)	
整形外科	1診	松本 芳則	松本 芳則	小坂 義樹	岡山大学	松本 芳則
	2診					
	小児整形			小坂 義樹		
	形成外科			北口 陽平		岡山大学
泌尿器科	1診	志田原 浩二	志田原 浩二	志田原 浩二	志田原 浩二	志田原 浩二

2019.2.1 現在

専門外来

糖尿病	月(月2回)	14:00 ~ 16:00	予約制	てんかん	土(月1回)	9:00 ~ 11:00	予約制
血液内科	火(月2回)	9:00 ~ 12:00	予約制	心臓血管外科	木	9:00 ~ 12:00	予約制
消化器内科	木	11:00 ~ 12:00	予約制	小児整形外科	水	14:00 ~ 14:30	予約不要
循環器内科	水	14:00 ~ 16:00	予約制	形成外科	水・土	10:00 ~ 11:00	予約制
病院長午後外来	木	14:00 ~ 15:30	予約制	総合診療科	水	14:00 ~ 16:00	予約不要
肝臓	金	9:00 ~ 12:00	予約制	ストーマ外来	第3木曜日	14:00 ~ 16:00	予約制
	土(月2回)	9:00 ~ 12:00	予約制	痙縮外来	火	14:00 ~ 16:00	予約不要
パーキンソン病	金(月2回)	14:00 ~ 16:00	予約制	在宅支援外来	月	14:30 ~ 16:00	予約制
腎臓	土(月1回)	10:00 ~ 12:00	予約制		金	13:30 ~ 15:00	予約制

地域医療連携室

外来・入院紹介

TEL / 0847-40-3656
FAX / 0847-40-3657検査予約
(CT・MRI)

TEL / 0847-51-8045

寺岡記念病院

TEL / 0847-52-3140(代) FAX / 0847-52-2705

通所リハビリテーション「フォース」

ローカルコモンズ・ウイル

TEL / 0847-52-7655

TEL / 0847-54-0620(代)

本誌について、ご意見ご感想がございましたら是非お聞かせください。

